

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成28年5月号）

福島第二原子力発電所1～4号機は、燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

59名の新入社員を迎えて 研修を行っています

- 東京電力グループは今年度、555名の新入社員を迎え入れ、このうち福島二つの原子力発電所で働く59名が当所で研修を行っています。
- 新入社員の挨拶では、「二度と事故をおこさない」「福島第一の廃炉を着実に進めていく」などの抱負とともに、それぞれが持っている仕事に対する熱意や目標を高く維持していきたいと決意が示されました。
- 新入社員は現在、原子力に関する基礎知識や現場の設備、放射線を測定する機器の原理や特徴など、原子力職場に必要な特有の知識を学んでいます。また、社会人として必要な基本教育も受けていきます。
- これらの新入社員研修を8月まで行った後、福島第一・第二原子力発電所の各職場へ配属される予定です。



先輩社員による業務概要の説明



放射線測定装置の研修



シミュレータ訓練の見学



原子炉圧力容器下部の見学

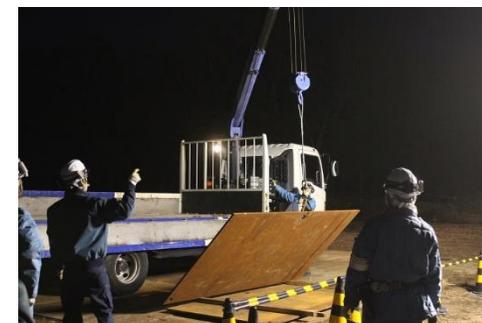
技術力の更なる向上を図るため

高線量下作業や夜間を想定した訓練を実施しました

- 震災の教訓から発足した4つのチーム*による直営技術力強化訓練は3年目に入り、技術力の更なる向上を図るため、日々訓練を重ねています。
- その一環として、ガレキ撤去チームでは、新たに高線量下での作業を想定した訓練や、夜間の緊急時対応を想定した夜間訓練を実施しました。
- 高線量下想定訓練は、全面マスクやカバーオールを装着するため、重機の操作や会話に負担がかかり体力を消耗します。また、夜間訓練は、仮設照明を設置し、視界を確保しながらの作業ですが、何れの訓練においても、設定した課題がこれまで通り着実に実施できることを確認しました。
- 引き続き、さまざまな状況下でも柔軟に対応できるよう、反復訓練だけでなく応用訓練も重ねて、直営技術力の向上を図っていきます。



バックホウの操作



鉄板の吊り上げ



陥没箇所の埋め戻し

*4つのチーム

震災時の経験から得た教訓をもとに、機器が壊れた場合でも当社社員単独で対応できるよう4つのチーム（ガレキ撤去、モータ取替、ケーブル接続、ポンプ復旧）を結成し、直営技術力の強化訓練を計画的に行っています。

現場で働く方々が少しでも安心して作業できるように 普通救命講習会を定期的を開催しています

- けが人や急病人が発生した際に、救急車が到着するまでの一時的な救命処置や応急手当を学ぶ普通救命講習会を、地元の公設消防の協力をいただきながら、定期的を開催しています。
- 講習会は消防署員の方の指導のもと、訓練用の人形を使っての胸骨圧迫や人工呼吸、自動体外式除細動器（AED）の取り扱い方法等、実技を中心とした心肺蘇生法等について繰り返し学びます。
- AEDは、発電所主要箇所を設置していますが、万が一必要となった場合に、より迅速に装着できるよう、設置箇所の追加や見直しを行いました。
- 現場で共に働く方々が少しでも安心して作業できるように、設置箇所の充実を図るとともに、取り扱い方法等の習得にも努めています。



講師の消防署員の方による実技指導



AED取り扱い訓練



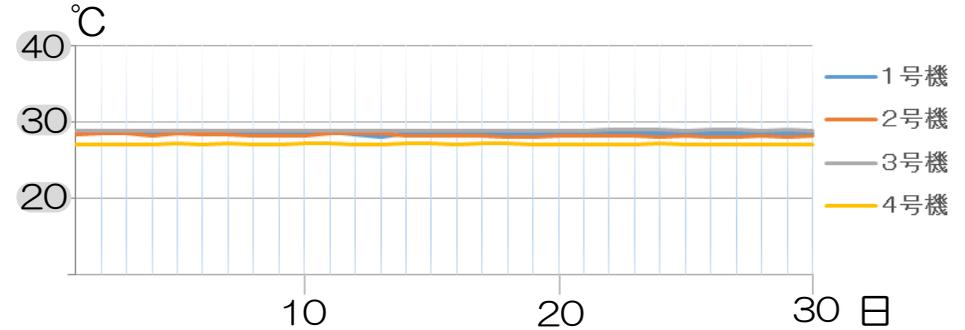
胸骨圧迫



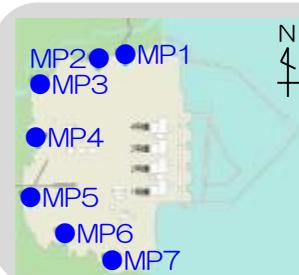
発電所構内設置のAED

燃料の冷却状況(4月分)

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。



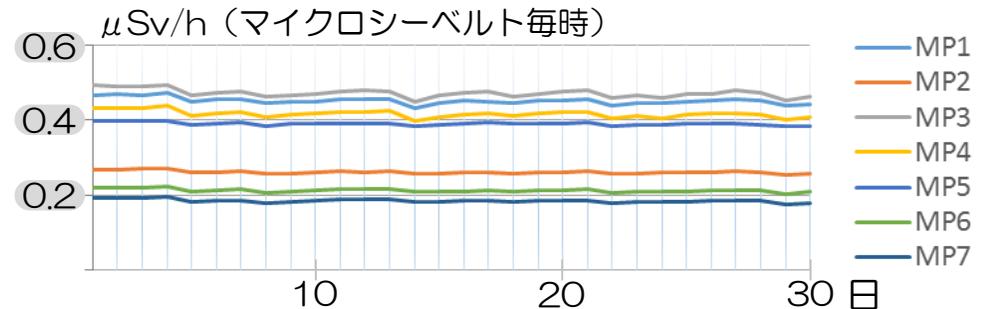
発電所周辺の放射線量計測状況(4月分)



構内に設置している全7基のモニタリングポスト(MP)により敷地周辺における空気中の放射線量の測定を常時行っています。

◇天気と放射線の関係について

空気中の放射線量については、天気によって変動します。一般に、雨が降ると空気中の自然の放射性物質が地表に落とされ上昇します。一方、雨による水たまりや積雪ができると、大地からの放射線が水や雪によって遮られ低下します。



これまでの使用済燃料プール水温度やモニタリングポストの計測状況については、当所ホームページをご覧ください。

ホームページURL

<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

QRコード



福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は引き続き燃料の安定冷却を継続してまいります。

【お問い合わせ】福島第二原子力発電所 企画広報グループ
tel 0240-25-1353 受付時間(平日)午前9時～午後5時